

市民懇話会で検討をすすめています

3月11日、25日と市民懇話会を開催しました。「自治基本条例がなぜ必要なのか、条例をつくる意味、条例に望むこと」など委員それぞれの発言をもとに意見交換を行い、今後の懇話会討論の方向性を確認しました。

自治基本条例をつくる意味とは

懇話会での意見交換から

自治基本条例をつくる背景について

「今までの市民と行政の関係ややり方ではなぜいけないのか」すべて行政に任せただけから、やってくれというだけでは解決できないことが多い。「市ができなくなつたことを市民に押し付けているのではないか」

行政がやってきたことをみんなでもやってみようというだけではなく、市民が主体になつていっしょにまちづくりを支えていくことが必要。

【懇話会では】

行政に任せているから市民は何も知らないということだと、まちづくりやまちの運営は、うまくいかなくなるのと考えて一致しています。

自治基本条例をつくる意味は

ここに住み続けたい、住み続けるために住みよいまちにする。そのためにどうしたらよいかを条例(まちのルール)として考えたい。

このまちを未来永劫、子どもたちに引き継いでいくためには、何が大切だろうということをも市民みんなが考えなければならぬ。そのための議論として条例であると思う。

懇話会では

これから自治基本条例の具体的な内容の検討を行います。自分たちが暮らすまちは、こうしたら良いなというイメージを持ち合いながら、実現するためにはどうしたら良いか」ということを「まちの基本ルール」として盛り込みたいと考えています。



出前トークメニューに「自治基本条例って何だろう」を追加しました。ぜひご利用ください。

問い合わせ 地域振興課地域自治係(市役所名寄庁舎3階) 01654 2111(内線3313)
E-mail ny-shinkou@city.nayoro.lg.jp http://www.city.nayoro.lg.jp

今「地球環境」を考える... シリーズ第2弾



今年7月に洞爺湖サミットが開催されますがその主要な議題は二酸化炭素排出削減です。世界各国が本気になって取り組まなければ、温暖化による環境破壊は避けられない状況です。この美しい地球と環境を後世に引き継ぐために何ができるか、このシリーズで考えて行きたいと思えます。

資源を大切にするエコ生活
買い物の際には、マイバッグを持参し、過剰包装は断りましょう!

スーパーやコンビニエンスストアで当たり前のようにもらっているレジ袋。その年間使用枚数は、約300億枚(1人1日約1枚)と言われています。

レジ袋は確かに便利で、犬のフンを入れたり、生ゴミを入れたり、物を渡すときなどに使えますが、もらった袋のほとんどがゴミとして捨てられています。

レジ袋を1枚作るのに、原料として約20mlの石油が使われ、使用後ゴミとなったレジ袋の処理にも多量の石油が使われています。

レジ袋はタダというイメージがありますが、これは単なるサービスではなく、ちゃんと代金(価格)に反映されています。過剰包装も同様です。例えばトマトなら、プラスチックの容器に乗せてラップで包んでいるものがあります。その分、価格は高くなります。確かにしっかりと包装の方が見栄えもよく、商品がつぶれにくいという利点がありますが、考え方によって

は、お金を払ってゴミを買い、その処理のために多額の税金が使われているといえます。便利さを追求する生活は、もう限界にきているといえます。我々日本人のような生活を世界中の人達が送るとしたら、地球が2個以上必要だと言われています。私たちの生活のため、子供たちの未来のためにも、できることから一つずつ行動していきましょう。

- ・ 買い物のときのエコ行動は断ります
- ・ マイバッグを持参、レジ袋は断ります
- ・ できるだけ簡易包装の商品を選びます
- ・ ばら売りや詰替商品など、ゴミが出ない商品を選びます
- ・ エコマーク商品など、環境に配慮した商品を選びます

問い合わせ 生活環境課生活環境係 01654 2111(内線3123)